

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 加藤有希
編集者 戸張桜

24/06/08(土)

第2回全国社会的課題委員会

概要 名称：2024年度 第2回 全国社会的課題委員会
日程：2024年6月8日(土) 13:00～18:00
場所：オンライン開催(Zoom)

出席者(敬称略)

- 委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 副委員長：丸山智晴(群馬大学生協 専務理事)
- 生協職員：田中(宮城教育大学生協)、村瀬(東海BK)、吉山(中四事業連合専務)、鹿住(JUON NETWORK)
- ブロック学生事務局：渡部(東北BK)、福士(東京BK)、赤井(東海)、池田(関西北陸BK)、伊勢(中四BK)、野川、今川(九州BK)
- 階層別組織委員会：加藤、中野、戸張、吉村、瀬川、伊藤、寺山、久野、高須、出口(24年度全国学生委員)
- 教職員：朴(三重大学)
- 全国大学生協連：中森、藤江、田足井(理事会室)
- オブザーバー：鈴木(東京BK)

これまでの様子は

[こちら](#)

次回は…

9/16(祝・月)



00 分野にわかれて具体的に協議！

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に討議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

a.環境チーム



環境

今年の環境チームは「日常生活から〇〇」というテーマのもと、環境活動を推進することに決めました！日常生活での何気ない環境に配慮した行動を起こすことができるように、リ・リパックや樹墨割り箸など大学生協が既に取り組んでいる取り組みをさらに活発にするため、日常生活から環境活動を拡げていきましょう！その他に、新学期や上半期に各地で行われた環境活動の共有や、森林の楽校の推進について、かんきょ〜ずミーティングに向けての協議を行いました。第1回かんきょ〜ずミーティングはチームメンバーと準備し無事に成功しました！

b.平和・国際貢献チーム



平和・国際貢献

平和・国際貢献チームでは、社会で起きていること、世界で起きていることに目を向け、自分たちごととして捉えられるように、またニュースを見て自分の頭で考えられるようになるために、毎回のチーム別協議で、気になるニュースを持ち寄って交流します💜今回は、様々な角度から「多様性」を考えました。他にも、読書×平和の視点から、ブックレビューについて深めたり、国際貢献について、ユニセフ募金の実施検討を行いました。#未来へのバトンについてもチームメンバー全員で確認を行いました💜

c.激甚災害支援・防災チーム



激甚災害
支援防災

防災携帯カード「Mottaca」の推進や「『ふくしま』スタディツアー」の企画内容について話し合いました！Mottacaについては、まず各大学生協に存在や魅力を上げていくことから始めていきたいという話が挙がりました。「ふくしま」スタディツアーでは、これまでに参加経験のあるチームメンバーから、現地の空気感や雰囲気をも自分で確かめる大切さを教えてもらうことができました。

今後もMottacaの推進や「ふくしま」スタディツアーを中心に、チーム活動に励んでいきます！

d.消費者チーム



消費者

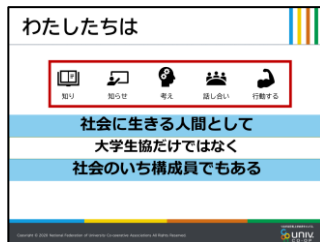
消費者チームでは、組合員の消費者被害防止・消費者教育に向けて現状を知り、自分たちにできることを考えるためにチーム別協議を行っています。4月に行われたチーム別協議#2では、新学期時期に行われた各地の取り組みを整理し、取り組みから広がる消費者教育について考えていきました。また、5月の消費者月間に向けてできることも考え、消費者チームの学生から新入生・大学生に伝えたいことを集約し、大学生協連HPへのニュース掲載・SNSでの発信を行いました。

今後は、学生の生活リスク講座の開催に向けて、チームメンバーとのテーマ協議を予定しています。

01 施設見学報告

ユニセフハウス&そなエリア東京へ

4月に全国学生委員と連合会職員とで「**ユニセフハウス**」と「**そなエリア東京**」の訪問を写真とともに報告がされました。各地域の「社会的課題」学習施設を調べ、仲間と一緒に訪問したり、会員生協や組合員に発信をしてみましょう！



02 能登半島地震報告

学生&職員の支援活動について

2024年1月1日に起きた能登半島地震について、全国大学生協連の代表として能登半島地震支援活動に参加した方から、活動概要や能登半島の状況、参加しての所感等について報告がされました。

▼久野耕大さん(24年度全国学生委員会常勤)

令和6年能登半島地震コープいしかわ訪問活動 期間：4/1(月)~4/5(金)



▼鹿住貴之さん(JUON NETWORK)

令和6年能登半島地震コープ被災地支援センター活動 期間：5/3(金)~5/7(火)



引き続き、能登半島について知り・考え・行動する大切さを周りの組合員に拡めながら、能登半島への支援を継続していきましょう

03 防災×店舗

店舗における取り組みの現状や課題は？

大学生協の店舗をフィールドに防災の取り組みを行うことの重要性、大学生協の店舗としてこれまで取り組まれて来た防災の取り組みについて、福島大学生協の「ローリングストックの徹底」や奈良女子大学生協の「災害備蓄用クラッカーの配布」などの事例から学びました。

能登半島地震の実情を踏まえながら、店舗における取り組みの現状や課題、組合員が災害に備えた行動ができるように店舗で取り組むべきことについて協議しました。

発災時、大学生協は安心できる場所になる。福島大学生協の店舗が東日本大震災の時によりどころになっていた。いざ起きたときにみんなが集まる場所になるような備えは必要だと思う。(学生)

地震が起こった後の大学生が不安な中でも少なくとも帰れるようになるまで、生協のお店、組合員に購買としてできることは何かあるかと思った。(学生)

大学とは防災協定を結んでいて、何かあれば避難所になるが、実際どうするかを大学と話し合うのはこれから。
備蓄品は備蓄として倉庫に放り込むという先入観があるけれど、店舗で見せるというやり方もあると思った。(職員)

大学生協店舗の4つの役割

店舗にこういう役割があること知っていますか？

- ・組合員が協同して生活要求を実現する場
- ・生協理事会が事業政策を執行する場
- ・生協職員が生活し成長する場
- ・生協経営を支える場

『大学生協ハンドブック』p.18より引用

大学生協店舗ができること(例)



ローリングストックの徹底

◆福島大学生協

◆概要

・日常的にローリングストック対象商品(ビスコ、ポテチに食べられるカレー等)を販売し、溢れずらい在庫を定期的に補充・更新し、災害時に備えて大学の備蓄と合わせて

◆教訓点

・常に商品補充がされているので、組合員は防災に向けた行動をしようと思った時にいつでも実現することができる
・備蓄が大学や大学構成員のたすけになる

災害備蓄用クラッカーの配布

◆奈良女子大学生協

◆概要

・災害備蓄用クラッカー700個(奈良生協より提供)を無料配布
・電池や筆などの防災用品セットも半額(3,500円→1,750円)で販売

◆教訓点

・防災における地域生協との関係づくり
・災害備蓄用クラッカーの無料配布や、防災用品セットの半額販売により、多くの組合員が防災意識を高めた

04 今年度の平和推進について

Peace Now!を起点に平和を考える

参加した学生の問題意識を次につなげる意識を大事にしたい。理事会での報告やお店でフェアをしたり、プチ講演会してみるとか。参加して、何かしたいって気持ちを保護してあげたい。(職員)

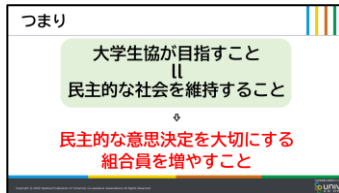
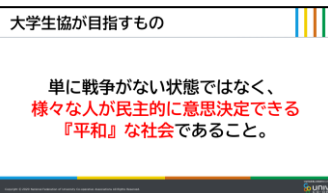
PN!に参加した学生はそこていろんなことを考える。いつかなかを選ばずするときの判断のよりどころになると思う。40年つないできたPN!という活動はそういう意味があると思う。(職員)

Peace Now!を起点として大学生協が大切にしてきた、平和活動を知り、Peace Now!に参加し、また参加後行動に移すためにどうしたらよいか、協議しました。

戦争のつらさや悲惨さが、身近なところに過去の痕跡が残っている国なのに、なぜ当たり前の平和だと考えているのか。日本の若い人たちの中で当たり前になっていて、与えられた平和になっていて、あまり考えてないのではないかという気がした。(教職員)

これからは自分で考えて政治に参加したりとかする中で、行動の責任、自分の行動が社会に影響を与える。自分で考え学んでいくことがこれから先の平和への行動の基礎になる。今のうちから考える癖をつけておくことが大事だと思う。(学生)

つながる元気、ときめきキャンパス。





地域報告で報告された、 注目する取り組みとポイント



環境

松山大学生協・愛媛大学生協「入居者の集い」

初めての一人暮らしを始める新入生に、ごみの分別や一人暮らしの注意点など慣れない新生活への不安を解消したいなどの想いから取り組みを行いました。生協サポート物件に住む新入生を対象に愛媛大学生協・松山大学生協合同で行われた新入生の集いにてクイズ形式をとりながらゴミ分別の仕方や3Rの知識について学ぶ機会を作ったほか、松山市の公式ライン登録を促し、ごみの分別分類がわかるようになっていることを伝えており、自治体によって異なるゴミの分別について学ぶ機会を作ることができました。

兵庫県立大学生協「総代会懇親会におけるリ・リパックの推進」

リ・リパックに対する認知度や回収率が低い現状があった兵庫県立大学生協でした。関西北陸ブロック学生委員会にて、リ・リパック学習会を学生委員長が聞いたことで、リ・リパックを使った企画をやってみたい！との想いから取り組みとして行われました。ヨコタ東北からの講演会で得た知識などから、総代会の機会を利用し認知を広めるために準備を進めました。組合員の代表である、総代が集まる総代会懇親会という場で説明することで、リ・リパックについて歴史やどのような社会貢献につながるのか、多くの総代や組合員に広めることができました。

激甚災害支援・防災

山形大学生協「東日本大震災・原子力災害伝承館見学」

東日本大震災当時の状況や復興に向けた歩み等について学ぶことができる施設に、生協学生委員会で見学してきました。見学後は「学生委員として私たちに出来ることを考える」というテーマで、振り返りのワークショップも行いました。

生協学生委員会(積極的な組合員)として「激甚災害や防災について知り考え行動すること」の大切さを組合員全体に拡げていくために、まず自分たちが学習することは欠かせないですね。

大分大学生協「防災に関する取り組み」

組合員の防災に対する意識を高める目的で実施されました。防災グッズを備蓄しておくことの必要性や1か月前に起こった地震の際にどのような対応をしたか、アンケートを取りながら行いました。

結果的に、242人の参加者が自分たちの防災への意識に関する投票をしてくれました。「災害時に取るべき行動について改めて知ることができた」などの反応を頂くことができました。防災に対する自分の現状を把握してもらうきっかけを作ることは、防災に対する意識を高めてもらうことにつながることが分かります。

平和・国際貢献

福島大学生協「PeaceNow!Our Life♡」

昨年9月に行われたPeaceNow!Okinawaの還元企画として、組合員向けに学習会を行い、GWや感想交流の時間からインプットだけでなく、考え感じたことをアウトプットできる取り組みが行われました。また併せて新入生サポートセンターのオープンチャットを活用し、組合員向けに沖縄で起きた地上戦の歴史などから、平和や戦争・紛争について考えるきっかけを作りました。企画の想いには「私たちの今ある生活を大切にすること」が掲げられており、過去に想いを馳せるだけではなく、自分たちの生活に落とし込むことができました。

千葉商科大学学生協「フェアトレード商品の販売」

生協店舗にて、フェアトレード商品を販売するコーナーを設置していました。フェアトレード関係の研究を行っている大学の研究室と協同し、組合員にとって身近な生協店舗で、フェアトレードという言葉やその商品について広く周知することができていました。

消費者

釧路公立大学生協「フリーマーケット企画」

新入生が新生活を始めるにあたり、かかる出費を少しでも減らしたい、卒業生や在校生が不要なものを処分したいけど処分できない、まだ使えるものがあるという声から、再使用が可能なものを集め、新入生に譲るためのフリーマーケットを実施しました。

残った物品はリユースショップなどで換金し、たすけあい奨学制度に寄付を行いました。

まだ使えるものを必要な人のもとに渡す、リユースやエシカル消費を意識するきっかけとなる取り組みです。

金城学院大学生協「一人暮らし女子会」

金城学院大学の学生のうち一人暮らしをしている割合は約10%であり、一人暮らしの悩みを共有しづらい現状があることから、一人暮らしを始める新入生の不安解消と友達づくりの場とするために、昨年に続き実施されました。

過去の参加者にも参加案内をし、一人暮らしの先輩も集めて、一人暮らしのアドバイスや関係する消費者問題の啓発も行われました。

消費者被害に遭わないためには、リスクに備えるための知識を身につけることが第一です。組合員の消費者意識を高めるきっかけづくりを大学生協だからこそその視点ですすめていきましょう。

つながる元気、ときめきキャンパス。



次回は…

9/16(祝・月)



政策討議を政策執行に
に繋げます